

令和4年度 校長だより 第9号

1 『未見の我』

11月20日、「令和4年度第70回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」が、東京・六本木ヒルズで開催され、本県代表として発表を行った本校定時制4年生の漆畑美広さんが、最優秀賞である「文部科学大臣賞」を受賞しました。



漆畑さんは、亡くなった恩師との思い出をスピーチしました。中学時代の自分を「不良のようだった」と振り返り、電気工事受験部の顧問だった恩師との出会いをきっかけに、資格試験に挑戦するなど「まじめになれた」と話しました。卒業後は電気工事の分野に進んで恩師のように一生懸命仕事に取り組みたいという夢を熱く語りました。(別紙「Converter」に掲載)

漆畑さんは、『未見の我』を見つけた一人だと思います。『未見の我』に気づくためには、自分自身を深く見つめ直し、何かに本気で取り組むことが大切です。本気に取り組む時だけ、内に眠っている才能が発揮されます。わたしたちも、『未見の我』を見つけていきましょう。

漆畑さんは、『未見の我』を見つけた一人だと思います。『未見の我』に気づくためには、自分自身を深く見つめ直し、何かに本気で取り組むことが大切です。本気に取り組む時だけ、内に眠っている才能が発揮されます。わたしたちも、『未見の我』を見つけていきましょう。

2 「本気の効力を見る！」

最近読んだ本に書かれていた容の一部を紹介したいと思います。

「やるときはやるよ！」という、そういう人が一番強かったりします。夢をかなえたいと思うなら、本気でやる瞬間を持つのはとても大切なことです。同じ夢に向かっていても、「まあ、てきとうにやればいいか」と、やる気があるのかわからないかかわからない感じでやっている人と、「絶対かなえてみせる！」と本気でやっている人とでは、結果に雲泥の差が出るものです。

本気か本気でないかで、自分の中にあるパワーの出方も違ってきます。自分のありったけのものをぜんぶ出し切れるということが、本気だということです。そのとき、本気というのは、何かを歯を食いしばって必死にやったり、つらいことに耐えてまでもやるということではありません。

本気の時は、自分のすべてを出し切ってはいるけれど、精神的にはとても豊かで、しんどいではなくむしろ楽しくて、やってもやっても疲れにくいというような感じなのです。本当に不思議ですが、やりたいことに夢中になっているときというのは、まったく疲れなくて、もっとしていたい♪というくらい、幸せな感覚の中にいるものです。それが本気で好きな証拠で、本気でやっているときのいい状態なのです。

(佳川奈未著「10代からの 夢をかなえる感性の磨き方 あなたの未来がミラクルハッピーになる！」から)

3 令和4年度オープンスクール



11月19日(土)、「令和4年度オープンスクール」を開催しました。コロナ感染症対策として、中学生とその保護者のみなさまを対象に事前予約制とさせていただき、中学生約430人、保護者の方々を加えると約950人の皆様が参加してくださいました。授業参観、施設見学や部活動見学、理数科説明会に加え、学校説明会&学校紹介動画上映、個別相談を行いました。大変熱心で、本校に対する期待の大きさを実感しました。桜咲くころ、夢と希望に満ちた皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

「『可能性の扉を開く鍵』がきっと見つかる」 ☆科学技術高校☆